

常任委員会視察報告書

委員会名	教育福祉常任委員会 (前川委員長、藤本副委員長、大石委員、水上委員、中村(て)委員、吉岡委員、志田委員) ※中村(て)委員は所用により由比ガ浜中学校の視察は不参加。 ※志田委員は体調不良により終日不参加。
視察先 調査事項 など	<u>小学校給食について、フリースペースについて、由比ガ浜中学校について</u> 11月27日(木) 11時45分～17時00分 視察先：今泉小学校、由比ガ浜中学校 説明者：今泉小学校長及び担当職員、由比ガ浜中学校分校長
視察先 概 況	<u>1 今泉小学校、鎌倉市立小学校の給食及び校内フリースペースの概況</u> (今泉小学校について) 今泉小学校は、昭和47年に小坂小学校より分離開校した市立小学校で、令和7年(2025年)5月1日現在で426人の児童が在籍しています。 (鎌倉市立小学校の給食について) 鎌倉市立の小学校では、小学校の調理室を使って調理する自校調理方式としており、献立は全市共通の標準献立を基本としながら、各学校の栄養教諭・栄養職員が学校ごとの行事等様々な要素を考慮し独自の献立を作成しています。 また、食材はできる限り国産のもの、地場産のもの、良質なものを選定し、購入しています。 (校内フリースペースについて) 鎌倉市教育委員会では、自分のクラスに入りづらい子供たちが落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習・生活できる校内フリースペースを令和6年度から令和8年度までの3か年をかけて、市内の全小・中学校に整備していく方針です。 校内フリースペースには、子供たちの学習支援等を行う支援員(まなびばサポーター)を配置し、子供たちが安心して過ごしながら心のエネルギーを充電できる「とまりぎ」のような空間を目指しています。 今回の視察では、小学校給食の試食の実施、校内フリースペースを担当課の説明を受けながら視察しました。 <u>2 由比ガ浜中学校の概況</u> 由比ガ浜中学校は、令和7年(2025年)に学びの多様化学校(不登校特例校)として設置されました。 学びの多様化学校(不登校特例校)とは、文部科学省の指定のもと、不登校の生徒に配慮した特別の教育課程を実施することができる学校です。

	<ul style="list-style-type: none">・一般の中学校より授業時数を減らし、自分のペースで学べる柔軟な教育課程を編成・鎌倉市立御成中学校の分校として設置・定員は30名（各学年10名）程度・他の市立中学校と同様にデリバリー式給食を提供・学区は市内全域 <p>今回の視察では、分校長から映像により子供たちの様子を説明いただいた後、学校内の視察を行いました。</p>
--	--

前川 綾子 委 員 長 所 感	<p>1 小学校給食について</p> <p>地産地消にこだわった食材（シラス・ワカメ）を使用した給食であり、大変美味しく頂いた、というのが率直な感想である。議会からも保護者や子ども達の給食に対する要望を教育委員会に届けてはいるが、味も素材も研究されていることがよくわかる。毎日多くの人数分を作り、決まった時間通りに食べることができることが当たり前のようになっていることに感謝をしなくてはいけない、と改めて強く感じた。</p>
	<p>2 フリースペースについて</p> <p>他の学校のフリースペースを見学していないので、その違いとか特徴がわからないところであるが、今回の視察先である『いまテラス』は、子ども達が学校に来ることができるように様々な支援や工夫が展開されている教室であることを良く理解した。やはり総じて言えるのは、重要なのは、人の配置に尽き、その人材の育成。そしてその人材と学校の先生のスムーズな連携である。</p>
	<p>3 由比ガ浜中学校について</p> <p>この中学校設立については、不登校生徒の学びの場の選択肢を広げる、という理解である。自己肯定感を高めるために、きづく・きめる・つたえる・ためす、の4つを充実させ、安全に安心して過ごすことができるように環境調整を進めているということが『いまテラス』と共通している。分校長の岩田明先生による今年4月の開校からこれまでの説明を熱い語りで伺った。これからの由比中がどのように発展していくのか、期待したい。</p>

藤本あさこ 副委員長 所 感	<p>1 小学校給食について</p> <p>今泉小学校にて給食を実食。この日は県内食材を活用したメニューの日でした。食材クイズも手作りで興味深く、栄養士さんの手の込んだ給食の提供を実感した。一方で、メニュー数が乏しくご飯（炭水化物）でおなか一杯になっている感を得た。また、かき揚げ丼ということだったが、食育の視点から、ご飯の上に何かを載せて提供する形式でないものが望ましいと感じた。（他の給食実食の際にも、魚をご飯の上に載せて提供しているのを認知しているための懸念）</p> <p>栄養士さんから、一食分の費用に限界を感じているとうかがったこともあるため、やはりメニュー充実のための食費の増額を求めている。</p>
	<p>2 フリースペースについて</p> <p>今泉小学校は特別支援級・通級指導教室・別室・フリースペースとすべての要素に恵まれている学校だった。フリースペースについても校長のやる気があったため初年度に設置が叶っている。スペース内にはセンサリーグッズも整備されているということだった。しかし運用面としては事前登録制であり、不登校状態の児童しか利用ができない状況ということで本来の目的は達成できていないと感じた。学校ごとの居場所のゆらぎについては議論が必要と感じる。</p>
	<p>3 由比ガ浜中学校について</p> <p>分校長から直近の様子と、幸いにも本校に入学が叶った幸せな生徒たちの話を聞くことができた。登校率が 80%を超えていることに安心した、と話していた。一学期は、生徒が登校してくてくれるか不安で職員室はドキドキしていたということであった。</p> <p>手厚い支援の入っている本校がうまく回っていることは嬉しいことであるが、市内に 400 人を超えている不登校生徒の根本的な対策にはなっていないため、一刻も早くこの手法を他 25 校に広めることが急務であると感じている。あるいは 30 人の定員を 150 人くらいまでは広げるなど、検討する必要がある。</p> <p>それをせずにこの学校のみが素晴らしい、という方針で施策が進まないよう、すべての児童生徒が取り残されないための場所にしていていただきたいと感じた。</p>

大石 香 委 員 所 感	<p>1 小学校給食について</p> <p>神奈川産品学校給食デーだったので、鎌倉産の釜揚げシラスやワカメを用いたメニューでした。味付けが良くてボリュームもあり、美味しくいただきました。今回は丼物と汁物、みかん、牛乳という組み合わせでしたが、欲を言えばもう一品、ちょっとした副菜があれば良かったように思います。来年度以降は国の支援も手厚くなるので、学校給食の質の向上にも期待いたします。</p>
	<p>2 フリースペースについて</p> <p>今泉小学校のフリースペース「いまテラス」には、扉を開けてもすぐに室内が見えない配慮や、音に敏感なこどもが気軽に使えるイヤーマフ、壁沿いの個別席、落ち着くための隠れスペースとなるミニテントもありました。こどもに寄り添ったサポーターもいます。様々な理由で教室へ入りづらい、学校へ行くのをためらっている児童には、足を運ぶきっかけになる場所だと感じました。</p>
	<p>3 由比ガ浜中学校について</p> <p>学びの多様化学校ゆえに、生徒ひとりあたりを支援する先生やスクールカウンセラー、職員の数が多く、寄贈による家具類や3Dプリンターもあり、非常に支援の手厚い恵まれた学校だと感じました。鎌倉市のこどもが通う中学校の選択肢が増える、という意味では良いことなのかなと思います。ULTLAという特例校の教科はとても興味深く、通常級でも活用できればと思いました。</p>

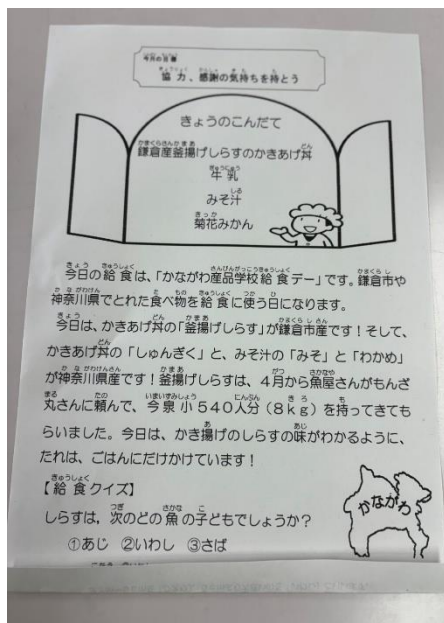
水上 武史 委 員 所 感	<p>1 小学校給食について</p> <p>今回、今泉小学校に視察に行き、給食を試食した。視察した日は、「かながわ産品学校給食デー」であり、鎌倉市や神奈川県でとれた食べ物を給食に使う日となっていた。メニューは、鎌倉産釜揚げしらすのかきあげ丼、牛乳、みそ汁、菊花みかんであった。プリントを通して、食材の産地をわかりやすく紹介し、農家や地域の人への働きぶりや命をいただく感謝の気持ちなどを学ぶ取り組みが行われている。品数は若干少ないようにも思えたが、大変美味しい給食であったと感じた。</p>
	<p>2 フリースペースについて</p> <p>今泉小学校の校内フリースペース「いまテラス」について、校長先生より説明を受け、見学した。この場所は、不登校傾向や教室に入りづらい児童のための「とまりぎ」として整備された、安心して過ごしながら自分のペースで学べる居場所となっている。そのための工夫として、教室内にイヤーマフを置いておくなど、主体的に学習できる環境を整えている。「いまテラス」は、子どもたちの今を照らすという意味が込められており、自分の学級に入りづらい子のための自分研究所とされている。自分を知ることを通して、自己肯定感や自己理解につながることを目指している。「気づく」「決める」「伝える」「試す」をキーワードとし、自己理解や自己決定、発信力や主体的に取り組む気持ちなどを育んでいる。「いまテラス」が児童にとって「ここなら行きたい」という場所であるために、様々な環境整備に取り組んでいる。例えば、入口のドアに「使用中です。用事のある人はノックしましょう」「のぞかないで」など配慮を促すボードを掲示している。また、入口のドアを開けても、まずパーテーションが設置されており、教室にいる子どもたちの心理的安全性が守られるよう配慮されている。その他にも、個別で活動できるスペースや、言語化を助けるコンディショニングカードや自分の気持ちをすっきりさせるための「まほうのことば」などの紹介があった。子どもたち一人ひとりが、安心して過ごせるための環境整備と否定しない関わりを心がけていることを確認できた。</p>
	<p>3 由比ガ浜中学校について</p> <p>分校長から学校説明を受け、校内を見学した。スクールビジョンは「自分らしく学び、自分らしく成長できる学校」としている。現在、31名の生徒が在籍し、登校率は81%となっている。由比ガ浜中学校での実践として、①心理的安全性②学びの充実③保護者との連携という3点を大切にしている。保護者会は年12回開催されており、学校としては保護者に対し、子どもたちの支援者側になってほしいと考えている。学びの多様化に向けて心がけたいこととして、「子ども中心の学びだからこそ子どもから学ぶ、子どもが教科書」とあった。これは31人の子どもたち、それぞれに学びの文脈があるという認識と関わる側の姿勢が示されている。このような姿勢で子どもたちと関わっていることもあり、子どもたちはのびのびと成長している様子がうかがえた。この学校での教員側の学びを、是非とも市内の教職員の皆様とも共有し、子どもたちへの実践に活かしていただきたいと考える。</p>

<p>中村てつや 委 員 所 感</p>	<p>1 小学校給食について</p> <p>今回の視察を通して、改めて学校給食の意義と、その背後にある職員の皆さまのご尽力に深い感銘を受けました。</p> <p>この日の献立は、かき揚げ丼、みそ汁、牛乳、そしてみかん。さらに、丁寧に作成された「給食だより」が添えられ、そこには「しらすは何の子どもか？」という興味を引くクイズとともに、使用された食材の産地が明記されていました。しらすは鎌倉産、春菊・みそ・わかめは神奈川県産とのこと。まさに「かながわ産品学校給食デー」にふさわしい、地元の恵みをふんだんに取り入れた献立でした。</p> <p>子どもたちは、食を通じて地域の自然や文化に触れ、郷土への愛着を育んでいます。学校給食は単なる栄養補給の場にとどまらず、友人との語らい、食への関心、そして命の大切さを学ぶ貴重な教育の時間でもあります。</p> <p>令和8年4月からは、国による月額5,200円（上限）の公費補助が予定されており、保護者の経済的負担軽減と、すべての子どもたちへの食の保障が一層進むことが期待されます。しかしながら、給食費の無償化が「質の低下」を招くようなことがあってはなりません。むしろ、子どもたちの健やかな成長を支える給食の質をいかに維持・向上させていくか、大人たちの責任が一層問われる時代に入ったといえるでしょう。</p> <p>今後も、子どもたちの未来を見据え、学校給食の在り方を丁寧に見つめ続けてまいります。</p>
	<p>2 フリースペースについて</p> <p>学校に通うことが難しい子どもや、教室という空間に居づらさを感じる子どもたちのために、鎌倉市では「とまりぎ」のように安心して過ごせる校内フリースペースの整備を進めています。この取り組みは令和6年度より始まり、令和8年度中には市立の全小・中学校への配置が予定されています。</p> <p>視察させていただいたフリースペースでは、プライバシーへの配慮、明るく穏やかな雰囲気、刺激を最小限に抑えた机の配置など、子どもたちが心を落ち着けて過ごせるよう、細やかな環境設定がなされていました。</p> <p>また、日々子どもたちと向き合っておられる「まなびばサポーター」の方からは、一人ひとりの特性に応じた支援の工夫について伺いました。クラスという集団の中での生活と、フリースペースでの個別的な学びとをつなぐには、担任とサポーターとの間で子どもに対する共通理解を持ち、密に連携することが不可欠であると実感いたしました。</p> <p>子どもたちの居場所の多様化は、これからさらに進んでいくことでしょう。その際に何よりも重要となるのは、周囲の大人たちが子ども一人ひとりの背景や思いを深く理解し、支援の方針を共有しながら、丁寧に連携していくことです。今、私たちはまさに教育の転換点に立っています。ハード（施設）とソフト（支援体制）の両面から、子どもたちにとって最善の環境とは何かを問い続け、共に築いていく責任が、私たち大人にはあるのだと強く感じています。</p>

1 小学校給食 試食 と今泉小学校フリースペース「いまテラス」

2025年11月27日

いじめや不登校、問題行動等対応すべき子どもたちが増加しています。鎌倉市は全小中学校にフリースペースを2026年までに整備します。教育福祉常任委員会で12時30分から今泉小でフリースペース「いまテラス」と小学校給食の試食。15時から是由比ガ浜中学校を訪問しました。



この日の給食は「かながわ産品給食デー」。鎌倉市でとれた釜揚げシラス、県内でとれた春菊のかき揚げ井とみそ汁。わかめ、みそが県内産でした。大量に準備するのは難しく年に1回程度とのことでした。自校で作っており、温かい給食 おいしくいただきました。

いまテラスは今を照らすという意味。音に敏感な児童はイヤーマスクをつけていました。

自分のことを見つめてもらうことを大切に 自己肯定感を大切にして個別指導

気づく、決める、伝える、試す という具体的な働きかけをしているとのことでした。

いろいろな面で敏感なお子さんが多いので、刺激調整を大事にしている教室の入口にはパーテーションを置き、外との刺激を少なくする対応をしていました。会計年度職員が2名で毎日1名の配置

担任と子供がつながるように、担任は毎日「いまテラス」を訪ねるようにしている

いまテラスの担当の先生は学校に来られることが大事だと思っている。

本人が行きたいと判断できる

課題は人の配置 勉強を教えられる人の配置

不登校になっていた子供がいまテラスに来るようになり 友達との関係ができるようになってほしいと思いました

2 由比ガ浜中学校について

15時～ 由比ガ浜中学校へ

2025年4月に御成中学校の分校としてオープン

不登校の子どもたちのための学びの多様化学校として開校され、鎌倉地域全体から31人の生徒が在籍しています。卒業後は高校入学等、次につながっていけるのです。10カ所目の中学校。

不登校だった子どもたちが自分の意思で行きたい場所になっているなと感じました。

自己肯定感を大事に

小学校からずっと不登校だった子どもたちが少しずつ自分を取り戻し、友達とのかかわりができていく姿が示され、1人1人に寄り添った取り組みが大事であると思います。

先生、カウンセラー等、人の配置があることが、1人1人により沿った対応ができるとおもいます。

今不登校児童生徒が増えているとき、この学校だけでなく、多くの居場所が必要であると思います。

